

幾何学概論第一 (MTH.B211)

1: 平面曲線の基本定理

山田光太郎

`kotaro@math.titech.ac.jp`

`www.math.titech.ac.jp/~kotaro/class/2020/geom-1/`

東京工業大学理学院数学系

2010/10/01

目標

定理 (平面曲線の基本定理 (テキスト 22 ページ, 定理 2.8))

区間 $I \subset \mathbb{R}$ 上で定義された C^∞ -級関数 $\kappa: I \ni s \mapsto \kappa(s) \in \mathbb{R}$ に対して, 弧長によりパラメータづけられた平面曲線 $\gamma: I \rightarrow \mathbb{R}^2$ で, 曲率関数が $\kappa(s)$ となるものが存在する. さらに, そのような曲線は \mathbb{R}^2 の 回転と平行移動 で移り合うものを除き唯一である.

- ▶ 回転と平行移動: \mathbb{R}^2 の向きを保つ合同変換.

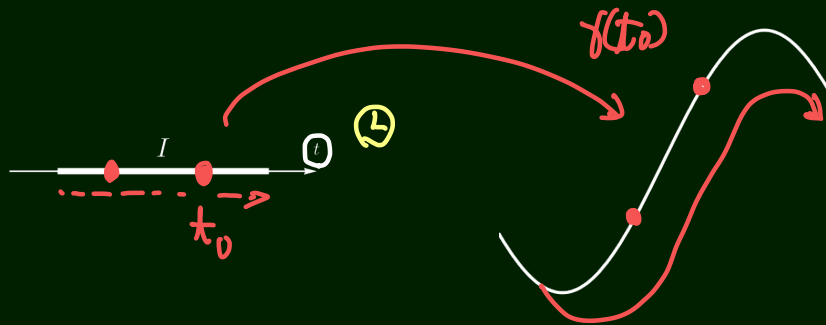
何か曲線をきめろか?



平面曲線のパラメータ表示

- ▶ 平面曲線のパラメータ表示：区間 $I \subset \mathbb{R}$ 上で定義された C^∞ -級写像

$$\gamma: \mathbb{R} \supset I \ni t \mapsto \gamma(t) = (\underline{x(t)}, \underline{y(t)}) \in \mathbb{R}^2.$$

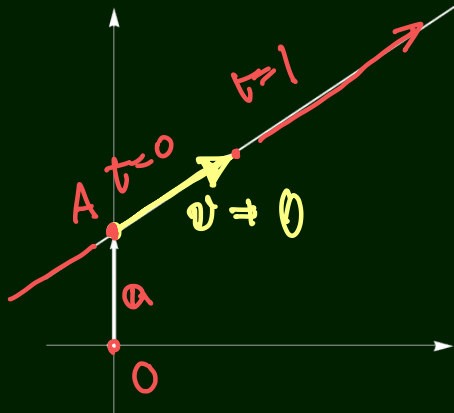


例：直線

$$\underline{\gamma(t) = tv + a}$$

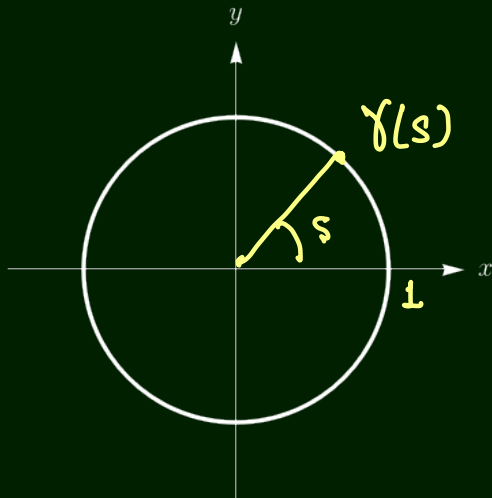
$$(v \in \mathbb{R}^2 \setminus \{0\}, a \in \mathbb{R}^2)$$

直線



例：円

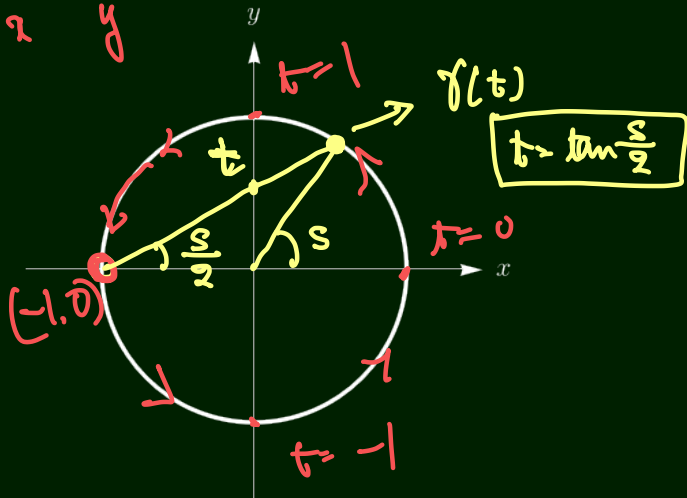
$$\gamma(s) = (\cos s, \sin s)$$



例：円（射影直線）？

$$\gamma(t) = \left(\frac{1-t^2}{1+t^2}, \frac{2t}{1+t^2} \right) : \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}^2 \quad x^2 + y^2 = 1$$

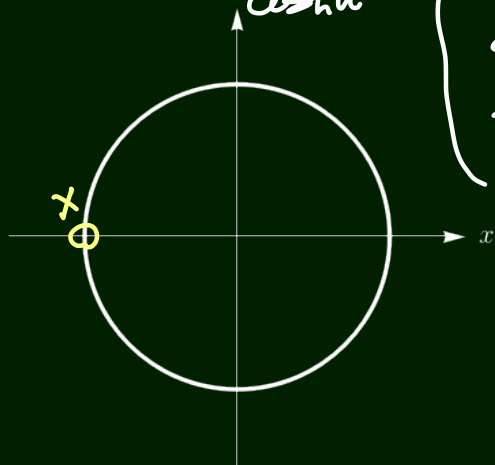
x y



例：円

$$\gamma(t) = (\operatorname{sech} u, \tanh u)$$

$$\operatorname{sech} u = \frac{1}{\cosh u}$$



双曲関数

$$\cosh x = \frac{e^x + e^{-x}}{2}$$

$$\sinh x = \frac{e^x - e^{-x}}{2}$$

$$\tanh x = \frac{\sinh x}{\cosh x}$$

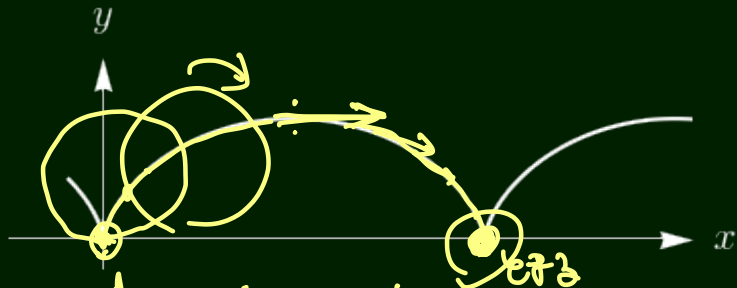
$$\cosh^2 x - \sinh^2 x = 1$$

(双曲線の表式)

$$1 - \tanh^2 x = \operatorname{sech}^2 x$$

例：サイクロイド

$$\underline{\gamma(t) = (t - \sin t, 1 - \cos t)} \quad C^\infty$$



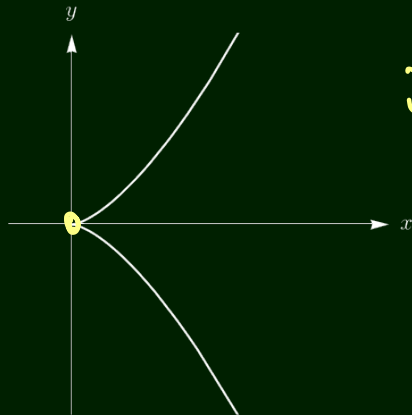
$$\dot{\gamma} = \frac{d\gamma}{dt}$$

$$\dot{\gamma}(t) = (1 - \cos t, \sin t)$$

$$t \in 2\pi \mathbb{Z} \text{ かつ } \dot{\gamma} = 0$$

例：カusp

$$\gamma(t) = (t^2, t^3)$$



$$\dot{\gamma}(0) = 0$$

正則にパラメータ付けられた平面曲線

定義

パラメータ付けられた平面曲線 $\gamma(t)$ が $t = t_0$ で 正則 であるとは

$$\dot{\gamma}(t_0) \neq \mathbf{0} \quad \dot{\gamma} = \frac{d}{dt}$$

を満たすことである。

とくに $\gamma: I \rightarrow \mathbb{R}^2$ が 正則にパラメータづけられた曲線 であるとは、 γ が I の各点で正則となることである。

- ▶ 正則でない点を パラメータ表示の特異点 という。
- ▶ 正則な点 の近くでは曲線は「なめらか」である ←
- ▶ なめらかな図形でも、正則でないパラメータ表示ができる。

例： $\gamma(t) = (t^3, 0)$

$$\dot{\gamma}(0) = \mathbf{0}$$

特異点

弧長パラメータ

定義

パラメータ付けられた平面曲線 $\gamma(s)$ が 弧長によりパラメータづけられているとは

$$|\gamma'(s)| = 1 \quad \left(\theta = \frac{d}{ds} \right) \quad \boxed{\text{速さ1}}$$

が恒等的に成り立つことである。

- ▶ 弧長によるパラメータづけられているならば、正則にパラメータ表示されている。
- ▶ 正則にパラメータ表示される曲線は、弧長パラメータに変換することができる (次回)
- ▶ 「弧長」の語の意味は次回。
- ▶ 例: $\gamma(s) = (\cos s, \sin s)$

$$f(s) = (-\sin s, \cos s)$$

曲率関数

κ Krümmung
die Krümmung

定義

正則にパラメータ付けられた曲線 $\gamma: I \rightarrow \mathbb{R}^2$ の曲率 (曲率関数) とは

$$\kappa(t) := \frac{\det \begin{pmatrix} \dot{\gamma}(t) & \ddot{\gamma}(t) \\ \dot{\gamma}(t) & \dot{\gamma}(t) \end{pmatrix}}{|\dot{\gamma}(t)|^3} \quad \left(\cdot = \frac{d}{dt} \right)$$

で与えられる関数のことである。ただし右辺の分子は 2×2 の行列 $\dot{\gamma}, \ddot{\gamma}$ が成す 2×2 行列の行列式を表す。

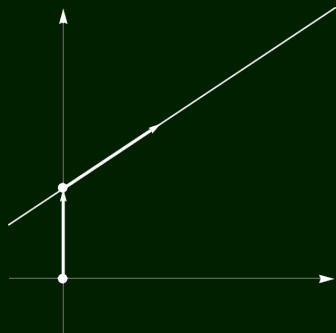
弧長によりパラメータづけられた曲線 $\gamma(s)$ の曲率は

$$\kappa(s) = \det(\gamma'(s), \gamma''(s)) \quad \left(' = \frac{d}{ds} \right)$$

である。

直線

$$\gamma(t) = tv + a \quad (v \in \mathbb{R}^2 \setminus \{0\}, a \in \mathbb{R}^2)$$

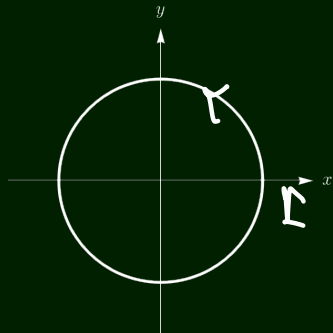


$$\begin{aligned} \gamma''(t) &= 0 \\ \det(\dot{\gamma} \quad \gamma'') &= 0 \end{aligned}$$

$$\kappa(t) = 0$$

例：円

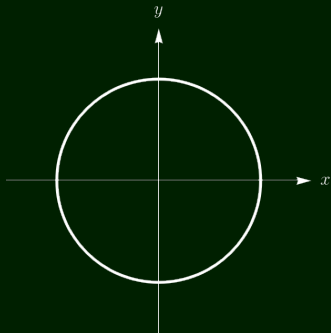
$$\gamma(s) = r(\cos s, \sin s) \quad (r > 0)$$



$$\kappa(s) = \frac{1}{r}$$

円 2

$$\gamma(u) = r(\operatorname{sech} u, \tanh u) \quad (r > 0)$$



Exercise

$$\kappa(u) = \frac{1}{r}$$

曲率の合同変換による不変性

定理

曲率は \mathbb{R}^2 の回転と平行移動で不変である。

言い換えれば,

命題

正則にパラメータづけられた平面曲線 $\gamma(t)$ の曲率関数を $\kappa(t)$ とする。

もうひとつの曲線 $\tilde{\gamma}$ を

$$\tilde{\gamma}(t) := A\gamma(t) + a \quad (A \in \text{SO}(2), a \in \mathbb{R}^2)$$

で定めると $\tilde{\gamma}$ の曲率関数も κ である。

曲率の合同変換による不変性

命題

正則曲線 $\gamma(t)$ の曲率関数を $\kappa(t)$ とする.

もうひとつの曲線 $\tilde{\gamma}$ を $\tilde{\gamma}(t) := A\gamma(t) + a$ ($A \in \text{SO}(2)$, $a \in \mathbb{R}^2$)
で定めると $\tilde{\gamma}$ の曲率関数も κ である.

対称性
κ が不変性

$$\begin{aligned} \dot{\tilde{\gamma}} &= A\dot{\gamma} & \ddot{\tilde{\gamma}} &= A\ddot{\gamma} \\ \frac{\det(\dot{\tilde{\gamma}}, \ddot{\tilde{\gamma}})}{|\dot{\tilde{\gamma}}|^3} &= \frac{\det(A\dot{\gamma}, A\ddot{\gamma})}{|A\dot{\gamma}|^3} \\ &= \frac{\det A \det(\dot{\gamma}, \ddot{\gamma})}{|\dot{\gamma}|^3} = \frac{\det(\dot{\gamma}, \ddot{\gamma})}{|\dot{\gamma}|^3} = \kappa \end{aligned}$$

平面曲線の基本定理

定理 (平面曲線の基本定理 (テキスト 22 ページ, 定理 2.8))

区間 $I \subset \mathbb{R}$ 上で定義された C^∞ -級関数 $\kappa: I \ni s \mapsto \kappa(s) \in \mathbb{R}$ に対して、弧長によりパラメータづけられた平面曲線 $\gamma: I \rightarrow \mathbb{R}^2$ で、曲率関数が $\kappa(s)$ となるものが存在する。さらに、そのような曲線は \mathbb{R}^2 の回転と平行移動で移り合うものを除き唯一である。

- ▶ 後半 (一意性) は第 4 回に示す。
- ▶ 前半の証明 :

$$\left(\begin{array}{l} \theta(s) := \int_{s_0}^s \kappa(u) du, \quad \gamma(s) := \int_{s_0}^s (\cos \theta(u), \sin \theta(u)) du \end{array} \right)$$

とおけばよい。

- ▶ 別証明を第 5 回に与える。

$$\int | \gamma'(s) | = 1$$
$$\left[\det (\gamma' \gamma'') \right] = \kappa$$

平面曲線の基本定理

命題

式

$$\theta(s) := \int_{s_0}^s \kappa(u) du, \quad \gamma(s) := \int_{s_0}^s (\cos \theta(u), \sin \theta(u)) du$$

で定まる γ は弧長によりパラメータづけられた曲線で、その曲率関数は κ である。

$\underline{\kappa=1}$ $\theta = s$ $1 - \cos u$ ←

$$\gamma = \int_{s_0}^s (\cos u, \sin u) ds$$
$$= \int_{s_0}^s (\cos u, \sin u) du$$

$\int (\cos u, \sin u) du = (\sin u, -\cos u) + C$

$\int_0^s (\cos u, \sin u) du = (\sin u, -\cos u) \Big|_0^s = (\sin s, -\cos s + 1)$

(17)

問題 1-1

問題

弧長によりパラメータ付けられた平面曲線 $\gamma(s)$ で、その曲率関数が $1/(1+s^2)$, $2/(1+s^2)$ となるものの具体的な表示をそれぞれ求めなさい。

↙ ↘
↙ ↘

問題 1-2

問題

弧長によりパラメータ付けられた平面曲線 $\gamma(s)$ で、その曲率関数が $a \cos s + b$ (a, b は定数) となるものに対して、
 $\gamma(s + 2\pi) = A\gamma(s) + a$ となる $A \in \text{SO}(2)$ と $a \in \mathbb{R}^2$ が存在することを認めて、 A を a, b を用いて具体的に表しなさい。

$$k = a \cos s + b \quad 2\pi\text{-周期}$$